

大分市佐賀関 大規模火災

11月18日(火)、大分市佐賀関田中町で大規模火災が発生。おりからの強風にあおられ、瞬く間に広がりました。住宅など187棟が焼失し、1名の方がお亡くなりになりました。あらためて、亡くなられた方の御冥福と、被災された方々へ御見舞い申し上げます。

すぐに現場に駆けつけるのは、邪魔になるものと思い遠慮していましたが、先日、国会議員の現地調査があり現地に同行しました。現地では9年前に大規模火災が起きた新潟県糸魚川市より井川賢一副市長も来県されており一緒に回りました。

井川副市長は「糸魚川市の場合も強風にあおられて147棟が焼失しました。今回の佐賀関の大規模火災はひとごととは思えず、糸魚川市での経験が少しでも復興のお役に立てるかと思い伺いました。糸魚川の火災では、ほとんどが木造住宅で火災現場の片付けは早かったのですが、佐賀関の場合、多くの鉄骨や自動車等が残っており、片付けには時間がかかると思います。」と言われていました。

最初に訪ねたのは避難所となっている佐賀関市民センター。多くの方々が避難され、行政関係者、自治会の方々、保健所の職員が避難された方々への支援に取り組まれていました。



駐車場には大分県薬剤師会からモバイルファーマシー(移動調剤薬局)が派遣され薬を提供していました。また、別府市から温泉施設が設置され避難者に開放されていました。その他、多くの洗濯機を載せた災害支援洗濯車も稼働していました。



原田たかし活動報告



火災現場は瓦礫の山となっていました。移動できないままの車や子ども用の自転車、洗濯機など生活のありとあらゆるものが焼け残されていました。防火外壁の立派な家も外壁だけが残り内側が全焼していました。テレビの中継では、何度も爆発が起きていましたが、住居に設置されていたプロパンガスのタンクや車のガソリンに引火し爆発したことを消防署の方が教えてくれました。

私の母が育ったのが田中町に隣接する西町で、出火場所からすぐそばのところです。そこには今でも親類の家があり、私も子どもの頃、被災現場周辺で遊んだ記憶があります。親類の家は風上の位置で被害を免れましたが、変わり果てた近辺の現在の様子に胸が締めつけられました。

親類の話では、火災発生当時、火災の拡大に伴い避難場所が2回移動したとのこと。自治会の皆さん方が、独居高齢者へ声かけやお手伝いをするなどして避難を促したそうです。あらためて自治会の大切さを感じるとともに、日頃からの自主防災会等による防災訓練が重要だと思いました。

原田たかし後援会への加入をお願いします

原田たかし後援会への加入をお願いしています。年会費は1家庭1,000円です。加入していただいた方へは、年4回発行しています「原田たかし会報」と県民クラブ会報「県民ひろば」をお送りいたします。御連絡をお待ちしております。

原田たかし後援会 ☎0977(25)0011

〒874-0838 別府市荘園町12番18号 原田たかし事務所内